

平成24年度 事業実績報告書

社会福祉法人正榮会

さかえ保育園

平成 24 年度は保育会にとって大きな転換点となるであろう 1 年間でした。3 年を超え議論されてきた「子ども・子育て関連法」が 3 党合意による修正協議のもと 8 月 10 日に可決成立しました。税制改革により 7 千億円を子どものための財源とすることになりました。また、当初の総合こども園法案は廃案となり、現行の幼保連携型認定こども園制度を改善し、将来的な幼保一元化へ向け、既存の保育所及び幼稚園を政策的に誘導していくことになりました。平成 25 年度は新制度施行に向けた準備のため、「子ども・子育て会議」設置され、国が定める基本方針の本格的な検討が開始されます。この会議では、認定こども園の認可・運営基準や公定価格の策定、保育の質の向上に結び付く職員配置基準や処遇改善などが検討事項となっています。大きなうねりの中、年度内施設改善を進めてまいりました。園舎修繕は当初計画より相当額超過するに至るほど細部にわたって劣化し、随時改善すべく計画を練り直し、屋上の防水加工、屋上梁の修繕、裏庭に続く通路の施錠できる扉の設置、玄関周りの改修、それに伴い発覚した上下水道の改修等、工事を進めるにつれ、諸々の修繕箇所が発覚し、施工を余儀なくされました。随時相見積もりを取りながら進めました。24 年秋にはすべて完了しました。

例年行っている第三者評価については、本年度は利用者調査のみの年となり、保護者の皆様にご依頼申し上げ、実施しました。80%以上の回収率があり当園における保護者の皆様の意識の高さを感じさせられるアンケートとなりました。(報告書別紙)

年間の行事については、例年通りの部分もありますが、継続的に注意喚起される放射線被害について懸念される東北地方への合宿事業は本年度を持って中止し、次年度より冬の雪合宿を実施した上越地区方面に変更します。

苦情に関しては、現に保育園を利用している家庭・保護者からはありませんでしたが、入園に際し、入所前面談にて当職員に対し恫喝する保護者があったため、入園をお断りさせていただきました。その件で葛飾区の所轄係長の来訪があり面談し、ご納得いただきました。

忘備的記載事項として 4 歳時 7 月より入園し、本年度卒園予定だった児童が闘病の末他界し、卒園式に出ること、小学生になれなかったことを記載しておきます。

各クラス事業報告、保健衛生報告、給食報告は次の通りです。

0歳児

担任：西村・森・藤森

養 護	健康な生活リズムを作り上げていく為に、個々の健康状態を把握し家庭との連携を大切にしてきた。保育時間の長い園児には睡眠リズムや健康面など保育士同士の連絡も意識し情報の共有に努めた。
教 育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・排泄は個々の排尿間隔を把握しオマル・トイレに誘い無理なく移行してきた。出た事をしっかり伝え、喜び合うことで自信につなげ少しずつ慣れてきている。・睡眠は室内の温度・換気・射光に配慮し、落ち着いて眠る事が出来る環境作りに努めた。リズムを作る上で家庭との連携を大切にした。・着脱は誉めたり言葉を掛けながら一緒に行うことで自分でやろうとする意欲を育てていった。・遊びは安全で活動しやすい環境を整え、身体機能の発達を促す遊びを十分にを行った。色々な素材を使っての遊びや指先を使う遊びなど年間を通し取り入れていった。(助木、トンネル、マット、ボール、小麦粉粘土、新聞紙、シール。絵の具、クレヨン、型落とし、札落とし、積み木等) <p>【人間関係】</p> <p>子どもの様々な要求を受け止め、多く関わることで信頼関係を築いていった。安心できる保育者との関わりの中で友達存在を知り触れ合って遊ぶ楽しさを感じられるように関わった。</p> <p>【環境】</p> <p>散歩時に犬、猫、鳥、鳩、ポニーなど周囲の物に興味を持てるように言葉をかけたり、落ち葉や草花、実、雪、氷などには実際に触れる機会を多く持つようにした。</p> <p>【言葉】</p> <p>喃語に優しく応じたり、個々の指差しや発語など伝えようとしていることを丁寧に受け止め保育士とのやりとりを楽しんできた。絵本や手遊び、うた等を通して発語を促すようにした。</p> <p>【表現】</p> <p>手遊び、うた、体操を日々行い音楽に触れたり、リズムにのって身体を動かすことを楽しんできた。</p>

食育	<p>家庭、栄養士と連携をとりながら個々の発達に合わせ授乳、離乳食をすすめていった。手づかみ食べからスプーン、フォークを使って食べようとする意欲を育て言葉をかけたり楽しい雰囲気の中食事をしてきた。</p> <p>※保護者の希望で冷凍母乳を実施していたが、気温の上昇により冷凍が不完全だったり本児が哺乳瓶からミルクを飲むようになったことから夏前にはちゅうだんする。</p>
----	---

1 歳児

担任：外山・矢部

養護	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の「やりたい」という意欲や、身の回りに興味を持ち始めると自分達で行う姿を見守りながら、十分に褒めて認める事で、出来た喜びを感じられるようにした。
教育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄は、それぞれの排尿間隔に合わせて、布パンツへの移行を進めていき、個々に合わせて布パンツで過ごす時間を延ばしていった。濡らさずトイレで排尿した際に認める事で、自信に繋げ、進んでトイレで排尿出来るようになった。 午睡は、保育者が傍について寄り添う事で落ち着いて一定時間眠る。体力がついてくると、入眠まで時間がかかっていたが、その間も布団の中で静かに過ごす様伝えていった。 着脱は、「自分で」という気持ちが強くなり、やりやすいよう援助した事で、意欲的に着替えるようになった。ボタンの付け外し方や、畳み方を一緒に行いながら、出来た喜びを感じられる事によって、自分で畳み「できたよ」と伝えに来るようになった。 運動面は、戸外で走ったり、フープ・ボールを使って、投げる・転がす・跳ぶ等、保育者と一緒に十分に身体を動かして楽しむ。又、広々と安全な環境の中で、体操・肋木や大型積木を使い身体を動かす機会を室内でもつくる事で、個々の運動面の発達が伸びていった。 <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 玩具や場所の取り合いで押し合いや、叩く、噛みつく等の行動があったが、保育者が仲立ちをし「かして」「ありがとう」など、その都度伝えていった事で、子ども達同士で言葉のやりとりが増え、玩具を分け合うようになる。遊び以外でも、

	<p>様々な場面で子ども達同士での簡単な会話が増えて、他児との関わりを十分に楽しむようになってきた。</p> <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日は、水元中央公園や水元公園へ行き、季節ごとの自然物に十分に触れられるよう戸外遊びの機会を多くもった。製作で、拾った自然物や身の回りにある素材を使って様々な素材に興味を持てるようにし、感触を楽しんだ。異年齢児との手つなぎで、戸外へ出る機会を設ける事で、年上の友達の輪に入ろうとしたり、年下の友達と手をつなぐ時は相手を気にして優しく手を引いたり、異年齢児との関わりを意識するようになってきた。 <p>【言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身振り手振りで保育者に欲求を伝えようとしていたが、そこから単語と指差しが増えていき、二語文、多語文で話すようになる。遊びの中や保育者との言葉のやりとりを通し、文章で話す姿も見られ友達同士での会話を楽しむようになった。 <p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌や手遊びを保育者と一緒に楽しんだり、リズム遊びや体操で、音楽に合わせて身体を動かす機会を十分に設けた。しゃがむ、手を叩くといった動作から、身をひねる、ジャンプする等の動きが増え保育者の模倣をする。身の回りにある様々な素材を使い、描いたり作る事で感触を楽しめるようにした。自由画では、ペンを握る力が強くなり、濃く描いたり、円を描いて顔の部位を描こうとする等、描きたい物を形で表わすようになってきた。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動で様々な野菜に触れたりする事で、名前や色を覚えたり、食事中に質問したり興味を持つようになる。又、簡単なマナーや正しいスプーン・フォークの持ち方を知らせる事で、正しい姿勢で食べられるよう習慣づけるようにした。

2 歳児

担任：小林（善）・阿部

養 護	<ul style="list-style-type: none">・生活の中で、見通しを持ちながら活動をするようになる。 また、基本的には自分で身の回りのことを行おうとするが、言葉掛けを必要とする時もあった。 <ul style="list-style-type: none">・「自分はこうしたい。」という気持ちが強いため、その気持ちを受け止めながら安心して過ごせる環境の中で、健康的に保育者や友達と関わり生活した。
教 育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・排泄は尿意・便意を感じると、保育者に伝えトイレにて排泄を行う。排便後の始末は自分で拭こうとし、保育者が確認・必要であれば介助をした。 午睡は一人で布団に入り入眠するが、その日の活動や体調により入眠するまでに個人差があった。 <ul style="list-style-type: none">・着脱は衣服の前後や左右、裏表を自分で確認して行い、脱いだ服も自分でたたみ片付けを行う。スナップボタンはほぼ全員が自分で行うが、上着のファスナーとシャツをズボンの中にするのは個人差があり、介助を必要とする子どももいた。 <ul style="list-style-type: none">・運動面は、散歩時に距離のある公園まで歩いていくことを多く行っていたため、体力もつき長い距離も歩けるようになった。また、戸外・室内遊びにて、走る・跳ぶ・まわるなどの基本的全身運動が出来るようになる。楽しみながら指先を使った遊びを継続して行い、指先の細かい動かし方を身に付けていった。 <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none">・友達と追いかっこをしたり、ごっこ遊びを楽しみ、友達との遊びが少しずつ広がっていく。「貸して」「替わって」等、子ども同士で物の貸し借りや順番が少しずつ行えるようになった。 <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none">・散歩や公園での探索遊びを行うことにより、季節の移り変わりを保育者との言葉のやり取りなどから感じたり、身近な動植物に親しみを持ち触れる。また生活や遊びの中で物の名前や色・数・形に興味をもつようになる。しかし個人差があるため引き続き生活や遊びの中で取り入れ、認識できるように行っていく。 <p>【言葉】</p> <ul style="list-style-type: none">・絵本や紙芝居を好み、集中して物語を聞こうとする。 また、友達や保育者との会話も楽しむようになり、自分が経験したことや思ったこと、疑問に思ったことなどを言葉で伝えようとする。

	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現することを楽しみ、歌や手遊び・リズム遊びを積極的に行う。自由遊びや散歩の時に思い出し、友達と一緒に歌う姿も多く見られた。 ・製作は、にじみ絵を行ったり、のり・ハサミなどを使って切ったり、貼ったりを行うが、ハサミの動かし方が十分ではない子どももいるため、引き続き経験をしていく必要がある。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・調理保育や食材紹介を通して、食材の名前・色・形・匂い・触感にも興味を持ち、給食でテーブルに料理が並ぶと、自分達が調理した物がどこに入っているのか保育者に聞いたり、自分で探す姿も見られた。保育園の調理保育に良い影響を受け、苦手な食べ物も食べられるようになったと保護者からの報告もある。

3 歳児

担任：岡田

養護	<p>保育者との信頼関係を築き、個々の欲求を受け止め安定した生活を送る中で、少しずつ自分の思いを伝え、また相手に気持ちをわかるようになる。</p>
教育	<p>【健康】</p> <p>身の回りのことを自分で行うようになる。保育者に見守られながら着脱、排泄、食事など自分で行おうとする気持ちが芽生える。戸外活動後は、自ら手洗い、うがいを丁寧に行おうとする習慣が身についてきた。食事では食器の持ち方、並べ方、姿勢、三角食べについて様々なマナーについて知り、気をつけて食べるようになってきた。戸外活動は戸外に出て身体を動かす機会また自然探索をして自然に触れる機会を多くもち、集団で遊ぶこと、自然に触れて遊ぶことの楽しさを伝えて過ごした。</p> <p>【人間関係】</p> <p>個々の遊びから少しずつ集団での関わりが増え、共通の話題をもって遊びを楽しむようになる。その中で玩具や場所の取り合い、遊び方などで気持ちをぶつけあうことが多くなり、その中でお互いの気持ちを分かろうとするようになる。集団で遊ぶために遊びの中でも約束事があることを伝えていくように心がけた。</p> <p>【環境】</p> <p>戸外活動時、その季節の植物や虫、気の実に触れたり探索をする中で興味</p>

	<p>をもったことに共感して一緒に調べたりした。身近なものに触れる中で、色、数、形に興味が出てきて、会話の中に出てくるようになり、その中で認識を高めるようにしていった。個々に遊びを見つけ集中して楽しめるように環境設定を行って活動を進めた。</p> <p>【言葉】</p> <p>生活や遊びの中で保育者と話をしたり友達同士での会話の仲立ちをしてコミュニケーションがとれるようになり少しずつ会話を楽しむようになってきた。自分だけでなく相手の気持ちに耳を傾けるようになり、会話の中で相手のことを気にするところも見られるようになってきた。絵本や紙芝居の話を喜んで見たり聞いたりして、言葉を真似して遊んでいる。</p> <p>【表現】</p> <p>製作は、ハサミ、糊、絵の具、クレヨン、紙などの使い方を知らせながら、慣れるように製作を進めた。また製作したものを園内に飾ったり遊んだりする事で、作る喜びを感じるようにした。楽器の音色の違いを知らせながら楽器遊びを楽しんだ。絵本の読み聞かせで気に入った物語を劇遊びに取り入れ、様々な役になって遊びを楽しみながら広がるように関わっていった。</p>
食 育	<p>保育者や友達と一緒に、楽しい食事が行えるように配慮した。調理保育を通し食材の名前を知り、実際に触れて感触を確かめることで興味を持ち、苦手なものでも食べるようになった。給食のメニューの中に自分たちで調理した食材が入っているとより興味をもって、楽しんで食べるようになった。</p>

4 歳児

担任：中島

養 護	<p>室内の温度・湿度・換気等に注意しながら、生活や活動しやすい環境設定を心がけ、保育上の安全にも留意するようにした。</p> <p>子どもたち一人一人の気持ちや考えも受け止め、心身の成長を援助するとともに、自主的な行動を見守り、今後も安心して楽しく送れるように心がける。</p>
教 育	<p>【健康】</p> <p>友達の姿から影響を受けて、自分で行えることも増え、自信を持って、基本的な生活習慣を行うようになった。活動や気候に合わせて、衣服の調節を行ったり、手洗い、うがいの励行など清潔面なども意識して行っていた。集団遊びやルールのある遊びを取り入れていくことで、集団で取り組むことの大</p>

切さを知り、また、様々な運動用具にも興味を持って取り組んだり、年長児に憧れを持って挑戦する姿も見られた。

【人間関係】

保育者や友達との関係を広げていく中で、一人一人が決まりの大切さに気付いて、守ろうとする姿が見られるようになってきた。仲間たちと喜びや楽しさを共感できるようになる。一方で、競争心が起きトラブルも多く見られたが、互いの気持ちを代弁したり、間に入って見守ることで、自分たちで話し合っ解決することも増えてきた。相手の言うことや考えていることを理解しようとするが、自己主張が強く、自分の気持ちを抑えたり、我慢が出来ない場面も見られ、必要に応じて言葉がけを行っていった。異年齢児と自ら関わり、親しみを持ったり、年長児の姿に憧れや関心を持って、真似をしたりと、積極的に遊ぶ姿が見られた。

【環境】

園内外の行事に期待感を持って参加したり、園外活動の際には、季節の移り変わりが十分に感じられるよう、身近な自然を見たり触れたりしながら、その特性を知っていくことで、興味や関心を広げ、友達や保育者との会話を膨らませる姿が見られた。また、畑活動、チューリップ栽培、ポニー教室等の身近な動植物の世話をを行うと同時に生命の尊さや大切さを感じとるようになった。生活や遊びの中で、数や文字に対する関心も深まり、特に当番活動には意欲的に取り組む姿が見られた。

【言葉】

進級当初は、朝の挨拶をしっかりと行うことから始めることで、日常生活に必要な挨拶が身に付き、問いかけに対して、自分なりに考えて言葉にして返事をしたり、互いに会話を楽しむようになる。また、疑問に感じたことを積極的に尋ねたりする姿も見られるようになる。絵本や紙芝居は集中して見ているとともに感想を伝えたり、イメージを共有し合っ楽しむ姿が見られている。日常の言葉遣いや話の内容理解は個々に応じた言葉がけを行う必要がある。

【表現】

ピアノやリズムに合わせて体を動かしたり、楽器遊びをすることで、音の違いに興味を持ち、友達と楽器を持ちよっ楽しむ姿が見られた。歌の指導では歌詞の内容を理解しやすいように伝えることで、動と静を感じながら、歌う様子が見られていた。絵画製作では、一人一人のイメージを大切に受け止め、達成感を味わえるように個々の援助を心がけ、最後まで丁寧に仕上げていく大切さを伝えていった。また、作ったものを飾ることを楽しみにする姿も見られた。発表会では、自分で動きや言葉を考えていく中で、イメージの

	共有や友達同士の励ましが見られ、楽しみながら行えるようになった。
食 育	三色群活動、調理保育、行事食に期待感を持ち、喜んで参加することで、食に対する興味や関心が見られ、様々な特性を知ることにも意識が高まった。食事では一定時間内に終えようと意識をしたり、苦手なものでも自分から食べようとする一方で、食事のマナー、箸の使い方は個々の状態に応じて言葉かけを行っていく必要がある。

5 歳児

担任：牧野

養 護	一人一人の気持ちや考えを受け止め、安心感をもって楽しく様々な活動に参加できるように努めた。また生活環境を整え、安全で快適な生活が送れるように留意し、心身ともに健康的に過ごせるようにした。
教 育	<p>【健康】 基本的な生活習慣が身に付き、生活リズムも整い自立した生活を送れるようになり、健康面や生活面で必要な習慣も自ら進んで行えるようになった。 運動面は年間を通して竹馬、側転に取り組み、全身を動かして運動することにより運動能力を高めるよう努めた。その中で目標をもって諦めずに取り組む姿勢や友達と励まし合って取り組む姿が見られた。</p> <p>【人間関係】 年度初めは相手の思いを受け入れられずに友達同士のトラブルも多々あったが、日々の生活、夏合宿、運動会、雪合宿と様々な経験をする中で友達同士での関わりが深まり、相手のことを考えながら協調性をもって生活するようになった。異年齢児に対して優しさを持ち、友達を認め合ったり助け合ったりする姿も多く見られた。</p> <p>【環境】 年間を通しての戸外活動や散歩での季節の移り変わりを自然の様子から感じるとともに、一つ一つの自然物や事象に関心を深め、探究しようとした。また、行事についての由来に対する関心を持ち、経験することで理解を深めていた。</p> <p>【言語】 年間を通して絵本や紙芝居に多く触れ、見たり聞いたり自ら読んだりすることでイメージを広げ、想像力を持つことができるようになった。 自分の考えや思いをわかりやすく言葉にして友達に伝え、相手の話を理解しながら聞く態度が身に付いた。</p>

	<p>文字や数字に対する関心は高く、十分に理解し書いたり読んだりすることを楽しむ子どもたちが多くいたが、関心、認識が低い園児もいたため、より遊びの中に文字や数字を取り入れ、全員が関心を持てるようにしていくことが必要であった。</p> <p>【表現】</p> <p>一人一人の個性を尊重し、自由な表現を引き出せるように努め、発表会の劇では自分たちで台詞の言い方や動作を考え、表現する楽しさを感じていた。</p> <p>絵画では自信を持ち取り組む子どもたちが多く見られた反面、イメージが持てなかったり、イメージを表現することが苦手な子どもたちが見られていたが、絵画活動を経験していくことで、少しずつ自分なりのイメージを表現できるようになっていった。製作活動は細かい部分まで丁寧に行う意識が強くなった。</p> <p>音楽活動はうたうことを楽しみ、楽器は音色に親しみリズムやテンポを意識しながら友達と一緒に演奏する楽しさを感じていた。</p>
食 育	<p>毎月の調理保育で様々な食材に触れ、包丁の使い方や食材の切り方を学んだり、おやつ作りを通して調理の楽しさを感じていた。三食群やバランスガイドでは、食材の栄養などについても深く学ぶようになった。</p>

保健事業報告

看護師：小淵

【児童の健康診断について】

乳児健診・全園児健診共に、第3木曜日で行われた。

【健康状態の観察】

保健部会、朝礼、終礼を通して、朝の視診、受入について職員間で統一出来た。

また、児の状態の変化の都度、担任から情報を得た。

【投薬について】

一週間ごとに与薬依頼書を受けて軟膏塗布を行った。今年度は長期間に渡って依頼する慢性疾患の子どもが数人いた。

【症状の対応・事故防止のための取組み】

年間の保健部会時に、治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲、痙攣時の対応、誤飲時・口腔内の怪我・骨折・火傷の対応、感染症、予防接種、心肺蘇生術について、知識の確認を行った。

【虐待などへの対応】

平成 24 年度、身体的虐待の報告確認はなかった。

その他、性的・心理的・ネグレクトなどの問題も、保育士との情報交換を密に観察していた。

【疾病への対応】

保護者会や保健だより等で、緊急の際の連絡先の確認について発信していたために、スムーズに連絡が行えた。

【怪我の対応】

平成 21 年度より、擦り傷等は湿潤療法施行中。

【保健部会】

日 時 毎週月曜日 (13 時 30 分～14 時 15 分)

参加者 各担任、看護師、栄養士

※乳児・幼児部会の中で実施する。

目 的 主に、看護師と保育士の保健に関して。

各月の病欠・子どもの健康面・保健指導・保健連絡の場として活用できた。

引続き内容を検討し、充実させていきたい。

【保健指導について】

◎園児対応

指導として、歯磨き・風邪予防（手洗い、うがい）・咀嚼について行った。

歯磨きに関しては、春・秋の定期歯科健診の結果から、口腔内清掃状態の不良の子どもの増加を止めるための取組みとして 1 歳児からの歯磨き実施、繰り返し定期的な指導に加えて、幼児クラスでは食後に 3 クラス合同の「1 分歯磨き」を担当中心に行なった。

いずれの指導に関しても、紙芝居や歯の模型を使用し子どもに分かりやすく興味を引く内容を心がけ、担任と共に指導していった。

◎職員対応

【症状の対応・事故防止のための取組み】でも挙げたように、年間の保健部会時に治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲、痙攣時の対応・誤飲時・口腔内の怪我・

骨折・火傷の対応について、知識の確認を行った。

また、各病気に関して、ヘルニア・いちご状血管腫・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎・喘息・斜視・RS ウイルス感染症・その時々のある子どもに起こった病気に関しての知識をその月内で行えるように継続していきたい。

【身体測定の結果について】

保護者に個人表でお知らせし、年度末には年間差を報告した。

給食室事業報告

栄養士：岩崎、渡辺、中島千宝、中島千尋

1. さかえ保育園給食室の方針と事業計画を立てる。

<給食室としての方針>

①しっかり食べる子を育てるということを基本に、食べ物に関心のもてる子に育てる。

給食室としては、食べ物に関心を持てる子に育てるために『食を営む力の基礎』を培っていききたい。

②食べ物に関心のもてる子どもに育てるために、より良い食事提供に努める。

(考え方)

『食べ物に関心の持てる子』に育てるためには、食育を進めていく必要がある。

食を営む力とは 料理をする力 味がわかる力 食べ物の育ちがわかる力 食べ物を選ぶ力 元気な体がわかる力 行事を知る力と考える。その力をつけるために年齢別に年間食育活動を立て、調理保育や栄養教育などを進めていく。その他にも、保育士と密に連携して、保育年間カリキュラムや月間指導計画の食育内容を立てる。また、給食年間計画を立て、それを考慮した献立作成をし、より良い食事提供を行っていく。

<<具体的な事業計画>>

①食べ物に関心の持てる子を育てるために

料理をする力・・・調理保育、栄養指導、マナー指導など

味がわかる力・・・甘い、しょっぱい、すっぱい、苦い、おいしい味(基本味)、
匂い(食材の匂い、焼いた匂い、揚げた匂い)など

食べものの育ちがわかる力・・・畑での野菜栽培、魚さばき、食材紹介、
毎日の給食など

(食べ物や作ってくれた人への感謝の気持ち)

食べ物を選ぶ力・・・食材の原形・感触、匂いの食材、目で見えて食べたい食事、
彩り、食事形状、スタイルなど

(幼児室に子ども用ひらがなの献立表を掲示)

元気な体がわかる力・・・三色群の食材の働き、バランスガイド、栄養指導

行事を知る力・・・行事食

ほぼ予定通り進めることができた。おにぎり練習に関して昨年度は、おにぎりのおやつ提供時のみ握り方の指導をしていた。しかしその時だけだと、握る時の手の形が身に付きにくいという課題から今年度は粘土、小麦粉粘土を使用してのおにぎり練習の食育を取り入れた。年齢別に段階を踏んで進めていくことで、最終的に年長児で素手で握るという目標を達成することが出来た。

食べものの育ちがわかる力を育む為には食育の中で、食べものがどこででき、どんな形で、どんな色、どんな匂いをしているか等伝えていった。その中でも魚さばきの実演では、海から魚を釣り上げ、市場へ行き、八百屋で仕入れ、さばき、調理し口にするという流れで行う

②より良い食事提供(献立作成)のために

- ・ 子ども達と一緒に食べ、食べる様子を見る
- ・ 残食調査
- ・ 嗜好調査結果を次回の献立内容、作り方に反映させる
- ・ 給食会議 離乳食会議 幼児部会 乳児部会における保育士、看護師との定期的な意見交換
- ・ 給食部会における給食室内の話し合い
- ・ 試作会の実施
- ・ アンケートを実施し家庭状況を把握し、献立に反映させる

子どもたちと一緒に食事をする中で、よく食べるメニューや苦手な食材などの個々の嗜好を知り、食材の組み合わせに配慮した献立作成が出来た。苦手なメニューは少しでも食べられる様に、調理保育や食材紹介を通して食べる意欲に繋げたり、食べが進む様な声掛けを繰り返し行い、調理法、味付け等にも配慮することができた。また、会議で食育の進め方や毎日の食事について保育士と話をする中で各クラスの状況把握の統一ができた。また、家庭に向けてのアンケートにより、家庭での食事の疑問点に対応した。

2、栄養給与目標（昼食・おやつでとりたい栄養量の目安）

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄分 (mg)	V,A (μ g)	V,B1 (mg)	V,B2 (mg)	V,C (mg)	食物繊維 (g)	塩分 (g)
3才未満児	478	18	15	220	2.1	190	0.25	0.28	20	3.3	1.9
3才以上児	560	21	18	250	2.0	200	0.32	0.36	20	3.9	2.2

(平成24年度11月)

栄養給与目標は前後 10%以内になる様に献立作成を行なっている。また、食物繊維と鉄分の値を見直し、無理のない献立作成が行えた。引き続き次年度も続けていきたい。

3、食育について

○給食年間目標○

	目標	給食室配慮
4・5月	楽しい雰囲気の中でみんなと	切り方や味付けを工夫し、食べやすい

	一緒に園の食事に慣れる	食べ慣れている献立を中心に進める
6月	マナーに気をつけ、よく噛んで食べる	梅雨の時期なので、胃腸を整える食材を上手に食事に生かす。また、食後の歯磨きの大切さやよく噛んで食べることで虫歯予防になることも伝える。 食育月間なので、改めて正しいマナーを伝えていく。
7・8・9月	暑さに負けずにしっかり食べる	さっぱりした献立や、夏や残暑の疲れを回復させる食材を多く取り入れる
10・11月	バランス良く食べ、丈夫な身体をつくる	秋の味覚を取り入れて食品や料理の幅を広げる。食欲を満たす献立や量を工夫する
12月	食事することに喜びを感じ、意欲的に食べる	旺盛になった食欲を維持させるように食事量に気をつける
1・2月	寒さに負けずに楽しく食べる	体が温まる食材を取り入れ、温かい給食提供に努める
3月	みんなと一緒に楽しく食べる	春らしさを感じる料理を取り入れる

給食室年間目標を基本に、給食会議、離乳食会議、幼児部会、乳児部会等を利用して、各担任、看護師と連携をとり、その発達段階などを考慮して進めていく。更に食育は実施したものについては記録を残し、評価を行い、次回に活かしていく。さらに、食育がただやるだけにならない様に、各担任とすすめ方やねらい等を話し合い、より子どもたちの意識が高まる様に職員間の意識向上に努めていく。

給食年間目標は予定通り進めていけた。給食室配慮では定期的なマナー指導を行なっている為、次年度はマナー指導の点も加えていきたい。

食育も予定通り進めていけた。ねらいや目標、実施内容についても保育士と共に進めていくことで共通理解のもと行うことができた。次年度も各クラス担任と年齢に見合った食育のねらいを話し合い、進めていきたい。

4、外部への情報提供計画

- ・保護者への園便り『給食より』 月間献立予定表を配布（1回／月）
- ・レシピ配布（1回／月）離乳食レシピ（4回／年）
- ・当日の給食の実物展示
- ・バランスガイドの表示
- ・当月の給食の栄養素量（エネルギー・蛋白質・脂質・食塩）等の掲示→献立表に記

載

- ・ホームページでの公開
(当月の献立表・園便り『給食より』 調理保育実施予定表など)
- ・給食室前に保護者への情報提供の掲示(1回/月)
(園便りの給食より・給食室前の掲示物は共通した食に関する情報を提供)
- ・食育実施毎に、保護者へ向けて給食室前に食育内容を掲示。又、ツイッターにて食育実施の知らせや内容を発信。

外部への情報提供は計画通り進められた。

食事アンケートの結果からレシピ、掲示物共に関心のある家庭が6割と少なかった為、給食前の掲示物の配置や発信方法を改善していきたい。区より使用食材の産地確認および記録、今年度より公表の要請を受けて保護者には給食室前の掲示とツイッターにて食材の産地を発信。内容については、引き続き次年度も続けていきたい。

5、職員との連携計画

<保育士との連携>

- ・ 毎日の献立の嗜好調査の記入をお願いする
 - ・ 各子供の成長・体調・食における家庭環境を随時確認
 - ・ 給食会議、離乳食会議(各1回/月)
 - ・ 乳児部会、幼児部会(各2回/月)
- 食育の打ち合わせ随時

<看護師との連携>

- ・ 子どもの成長・体調を随時確認
- ・ 子どもの発育・発達を確認し、それに見合った献立作成、食事提供をする
- ・ 流行病を知る
- ・ 衛生管理情報の確認

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

6、アレルギー児への対応

- ・ 随時、保育士、看護師を交えて話し合いを行う
- ・ 4月、10月、計2回のアレルギー指示書の提出
- ・ 毎月末に担任保育士へ印をつけた献立表を渡してアレルギー児食の確認を行い、

保護者へは次月の給食内容(除去・代替食)を面談にて確認

- ・ 保護者へアレルギーで除去し、補えない栄養素などを栄養指導

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

7、離乳食について

(別添えの離乳食のしおり参照)

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

8、衛生管理について

(別添えの給食室マニュアル参照)

これまでは下処理用まな板は週に1度食器保管庫に入れ殺菌していたが毎日に変更となった。
その他の部分については計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

9、給食室施設の設備について

(別添えの給食室施設の使用マニュアル設備参照)

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

10、その他

災害時の給食についても次年度に向けて検討していきたい。

